

三〇二〇ミクロンの人体に近い波長の遠赤外線が患部に深く浸透。

からだの芯から温めて 血行をよくする暖房器

慢性関節リウマチとは

慢性関節リウマチは、膠原病と総称される自己免疫性疾患のひとつです。本来なら自己を守るためのシステムである免疫が、なぜ自己を攻撃してしまうのか、理由は未だ解明されていません。

リウマチの症状の特徴は、関節の腫れと痛みです。リウマチ細胞が関節の粘膜に取りついて関節軟骨を破壊し、破壊は徐々に骨の内部へと進行していきます。

初期症状は、朝のこわばりや関節を動かしたときの軽い痛みですが、やがて軟骨が完全に消失して骨と骨とが癒着して棒のようになると、完全に動きが封じられてしまいます。

このような状態が全身の関節に起されば、寝たきりにならざるを得ない

いわけで、リウマチは関節痛を伴う

多くの病気の中でもとりわけ深刻なものといえることができます。

原因はわかかっていませんが、体質に加えて、湿気と冷たさが発病の引き金となることははっきりしています。そこで、リウマチの予防と症状の緩和に、遠赤外線暖房器の連力が注目されているのです。

クリーンな健康暖房器

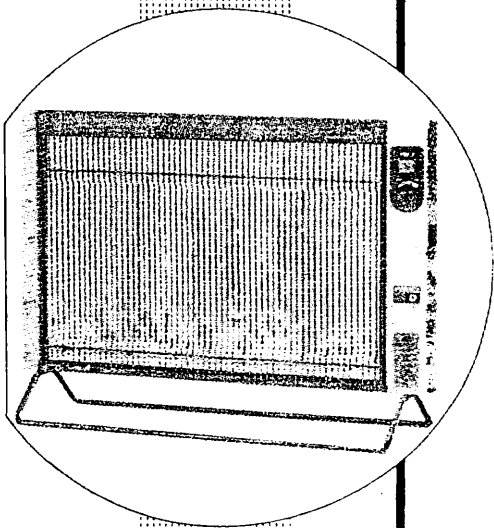
遠赤外線とは、太陽光線のうちの波長が三〇〇〇ミクロンまでのものを指します。この波長の光線は物体の奥深くまで浸透して温めることができ、健康にいいとして注目を集めているのがご存知のとおりです。

つまり遠赤外線を人間に照射すれば、からだの奥深くから温め、血行

をよくし、新陳代謝を促進して、生命力を高めるわけです。

その目的で考案された遠赤外線暖房器・サンラメラの熱焼板は、厚さ四ミリのセラミック板の裏面に特殊半導体をコーティングして高温で焼いたものです。この半導体に通電すると、電流量に比例して約三〇〇度までの熱が発生し、このとき、三〇二〇ミクロンの遠赤外線を放射します。

この、三〇二〇ミクロンという波長は人体が放射する遠赤外線に近いので、人体にとって最も吸収しやすく、従って効果の高い波長です。肩こりや神経痛、腰痛、そしてリウマチなどの痛みが和らぐのも、遠赤外線が患部に深く浸透し、毛細血管を拡張して血行をよくしてくれるからに他なりません。



また、サンラメラは電気エネルギーを直接熱エネルギーに変えている

わけですから、燃焼によって一酸化炭素などの有害物質を排出する心配がありません。輻射熱によって部屋や人体を直接温めますから、対流によってホコリやカビを巻き上げる心配もありません。

もうひとつ、リウマチにとつての大敵の湿気に対しても、サンラメラは有効に作用します。湿度の高い時期には室内をカラッとさせ、一方湿気の低い時期にはあまり影響がありませんから、冬場の加湿器は必要ありません。

クリーンで安全な暖房器・サンラメラは一晩中安心して使うことができる点でも、お年寄りや病弱な方の最高の暖房器といえることができます。

腰の激痛がひと晩で解消

東京都 馬越千恵さん(62)



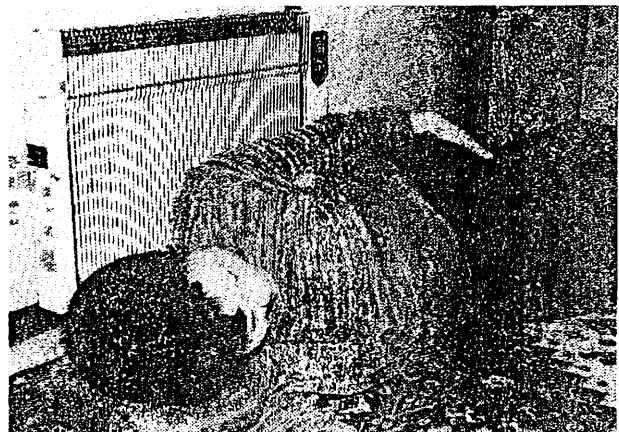
四年前の平成六年六月の夕方の四時頃でした。近くを散歩していた時のことです。突然、激しい腰痛に襲われて動けなくなり、道端にうずくまってしまいました。

自宅から二〇メートルほど離れた所でしたが、三〇分ほどしてから這うようにして帰りました。翌日、近くの病院で診察をうけましたが、採血と飲み薬と貼り薬のみで、様子を見ることになりました。数日して血液検査の結果、リウマチの因子が判明したのです。

翌日、アイエフの松尾社長に、店で四つん這いになっている姿を見られ事情を話したところ、遠赤外線サンラメラを貸してくれたのです。言われた通り腰と背中をサンラメラ

でひと晩中暖めました。すると痛みがとれ、その翌日は、呉服の売り出し日に当たって大忙しです。帯を締めつけて忙しく動き回る姿を、またまた松尾社長に見られ、遠赤外線・サンラメラの遠力を実感させられたのです。(高級呉服・まるこし・03-3685-0544)

それ以来、サンラメラは季節を問わず居間で活躍です。夏の店内は冷房を効かせているため、仕事の合間に居間に戻って腰と背中に遠赤外線を照射しています。主人はギックリ腰の経験者で、秋から冬にかけて腰痛に悩まされていたのですが、私の効果を見てからは、毎朝三〇分ほど、サンラメラを背にして新聞を読む習慣がついてしまい、腰痛の訴え



仕事の合い間に腰と背中を温める

がなくなりました。

この地で呉服店を開業して二五周年を迎えますが、お客様にもサンラメラをお勧めして、その効果のほどを体験してもらい、大変に喜ばれています。